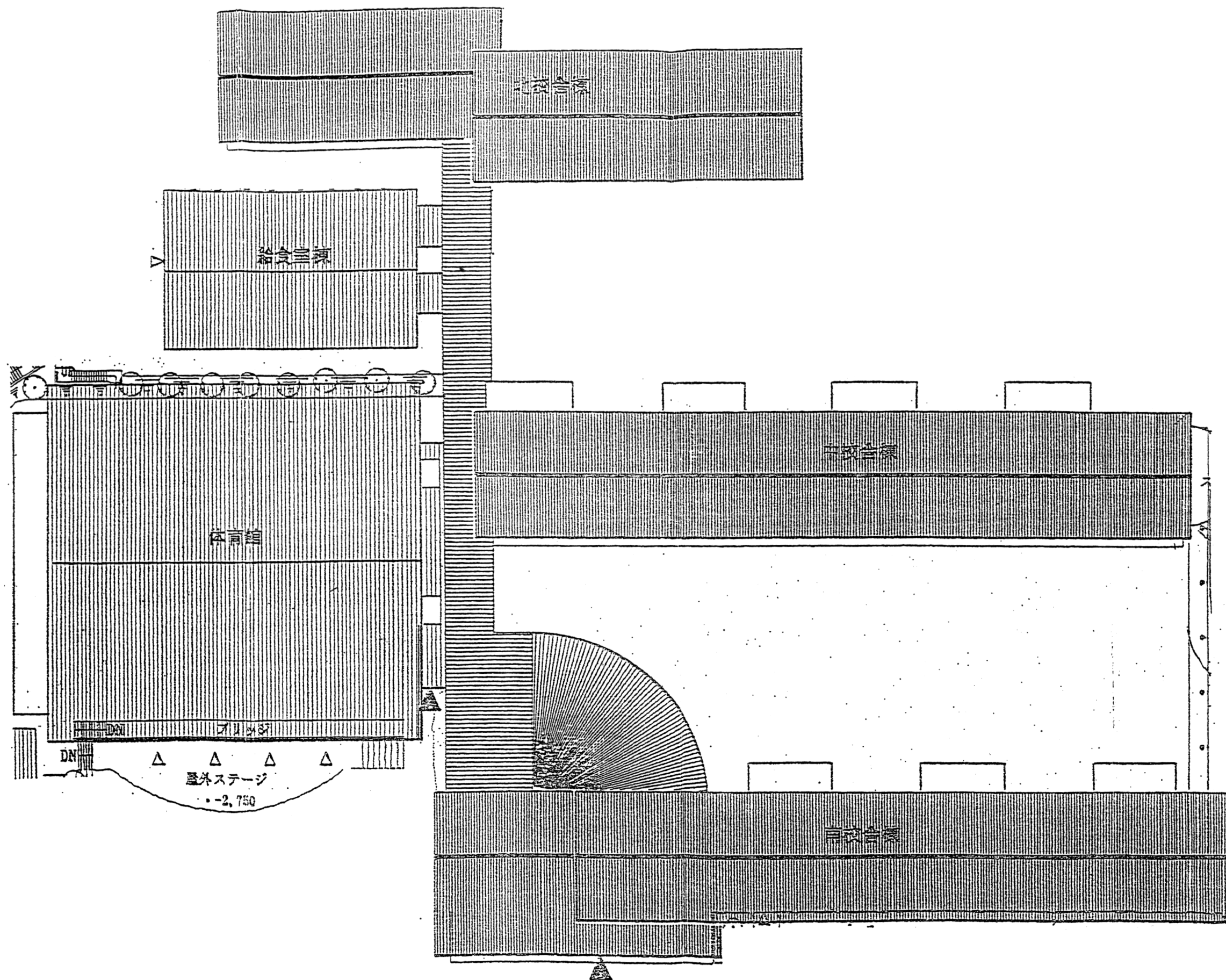
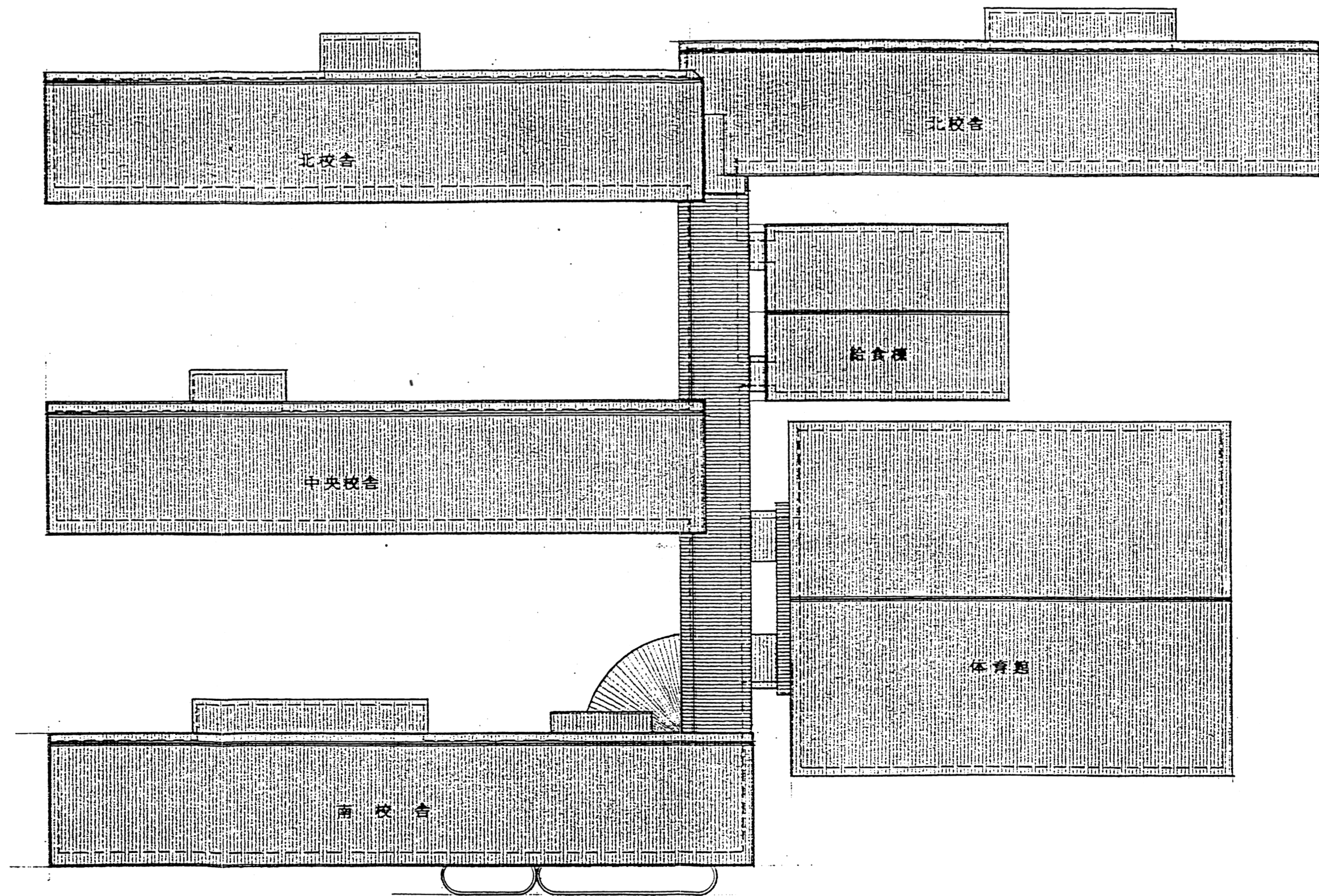
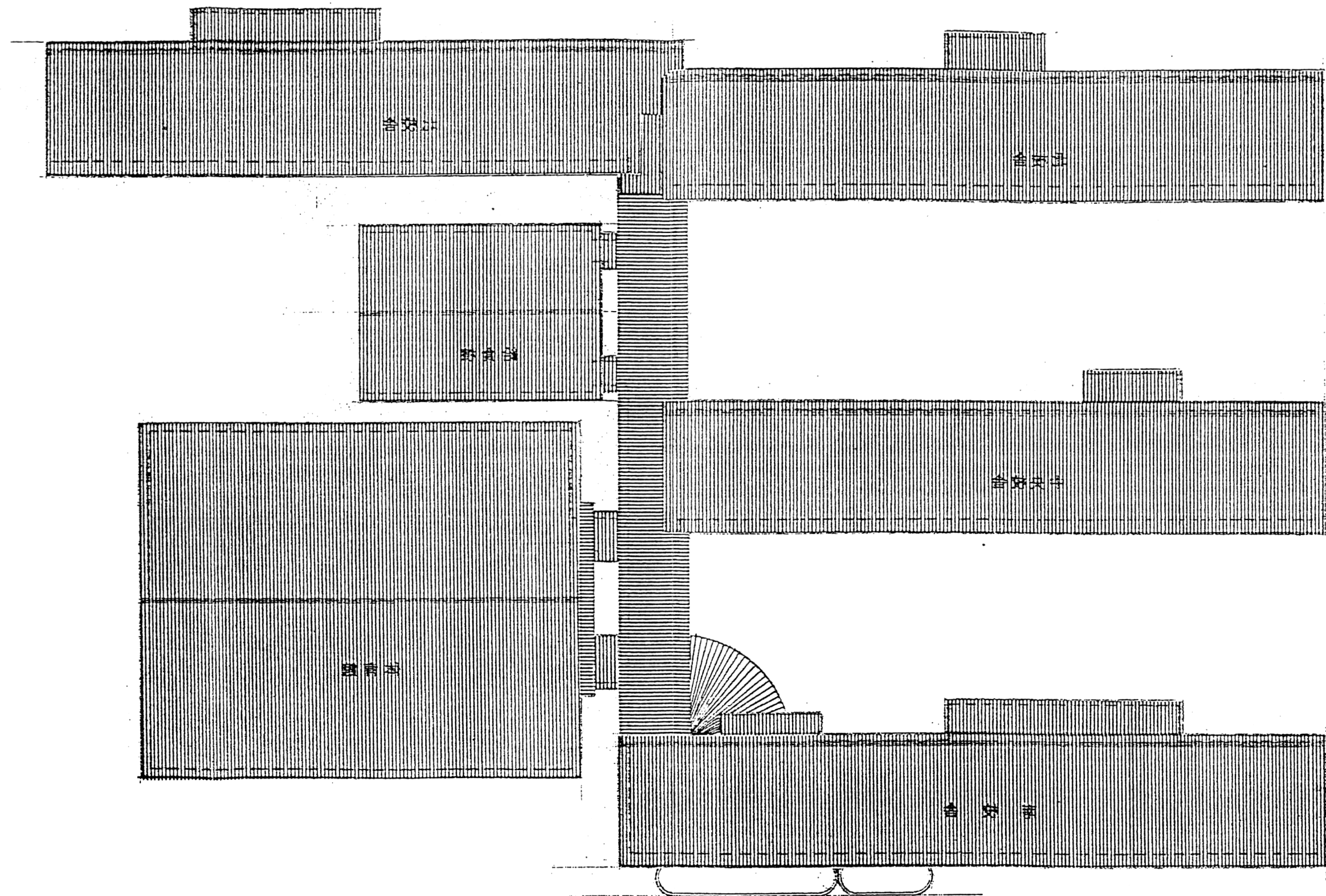




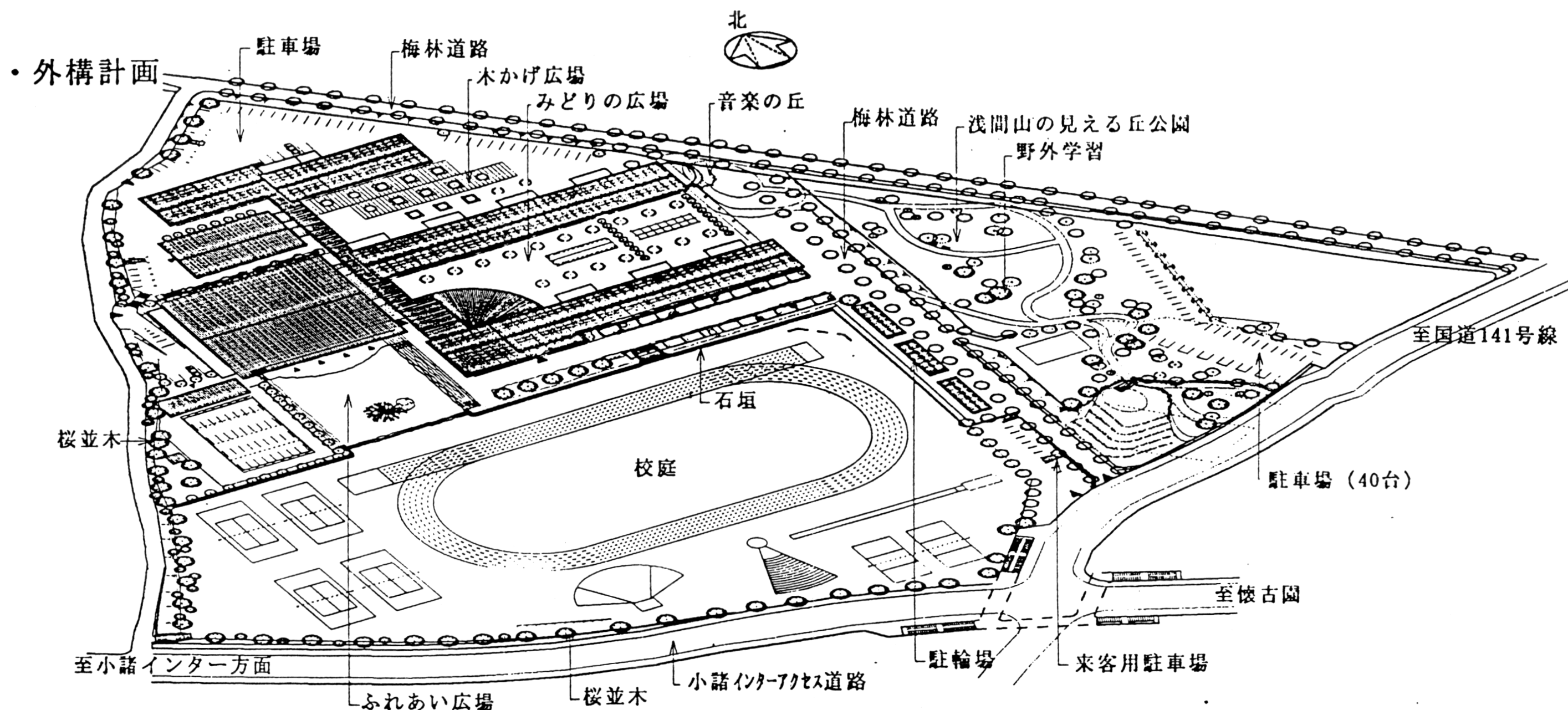
別紙第一図（芦原中学校配置図）



別紙第二図（東中学校配置図）



別紙第三図（東中学校逆配置図）

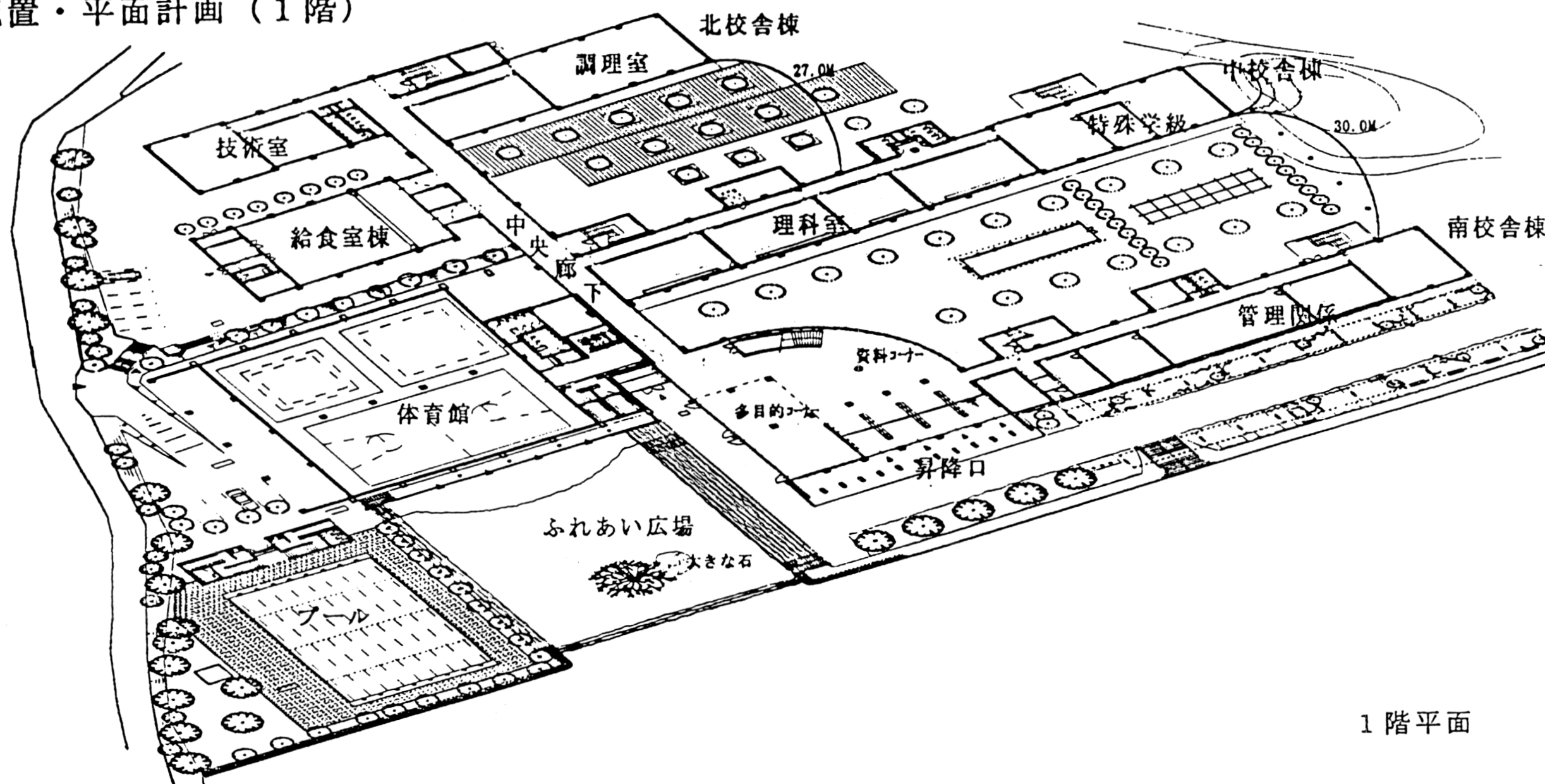


敷地の東端に梅林道路を、南側の小諸インターアクセス道路から北側の旧鉄道跡の道路までつなぎ復活させる。南及び、東側の敷地境は、桜並木として提案致します。建て替え計画順より2年次以降に解体する、現第2体育館跡は「ふれあいの広場」とし、校庭、小体育館と一体となり、音楽、集会、イベント、スポーツ等、コミュニケーションが図れ、友と、先生と、語れる場とします。中校舎棟3階の音楽室の東側は、現在ある丘を活用し、「音楽の丘」とし音楽室と連ねさせ、自然の中でも合唱ができる場とし、理科室棟の前の中庭は「みどりの広場」、北校舎棟調理室の前の中庭は「木かげ広場」として、旧校舎の床材を利用した屋外テラスを設け野外昼食及び、調理講習の食事広場として提案します。

校庭は最大限に広くとり、250mトラック（野球、サッカー）、テニスコート4面、バレーコート2面、フィールド等、十分活用できるようにしました。校庭を広くすることにより、壊される、思い出多き石垣は北側に後退させ再利用します。敷地東南に駐輪場、来客用駐車場をとり、人と車を完全に分離させ、梅林道路沿いに昇降口までアプローチします。

又、現敷地内で学校としての施設は満足出来るよう計画していますが、旧鉄道跡の道路を梅林道路とする事と、敷地東側の土地が購入可能ならば、生徒の野外学習の場として、近隣皆さんの憩いの場としての利用が自由に出来る「浅間山の見える丘公園」として、駐車場も含めて提案致します。

・配置・平面計画（1階）



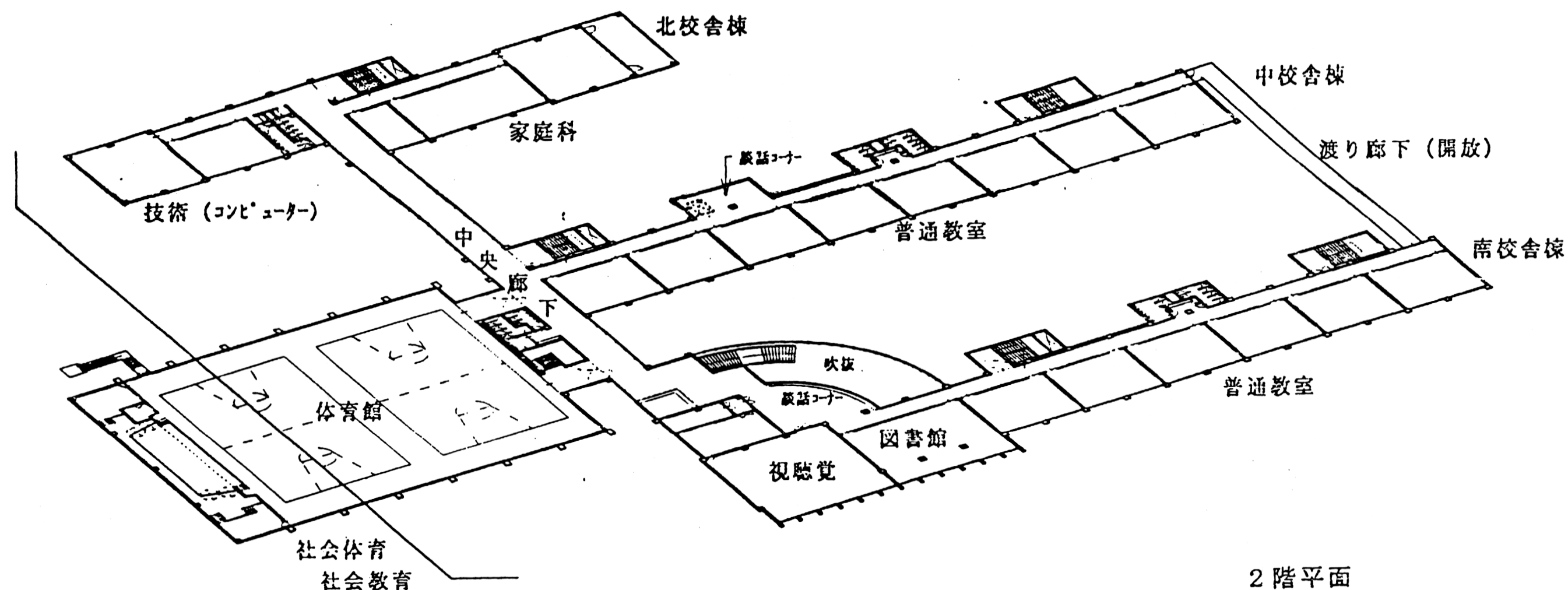
1 階平面

校舎配置は、昇降口を中央南に配置し、中央廊下を中心として、東側に南校舎棟、中校舎棟、北校舎棟とし、西側は、高さの関係から校舎レベル近くまで掘り下げた体育館、給食室棟とし、プールは体育館の西南とし、一日中陽の当たる位置としました。

尚、体育館位置は、現存第2体育館が授業、部活動等で、利用度が高いとの事から、新体育館が完成後、取り壊す計画として、高さも18.0m程度と高くなる為、校庭レベルまで下げ、校庭、ふれあい広場、プールと一体となり、1階の小体育館から直接校庭へ出られる様配慮しました。

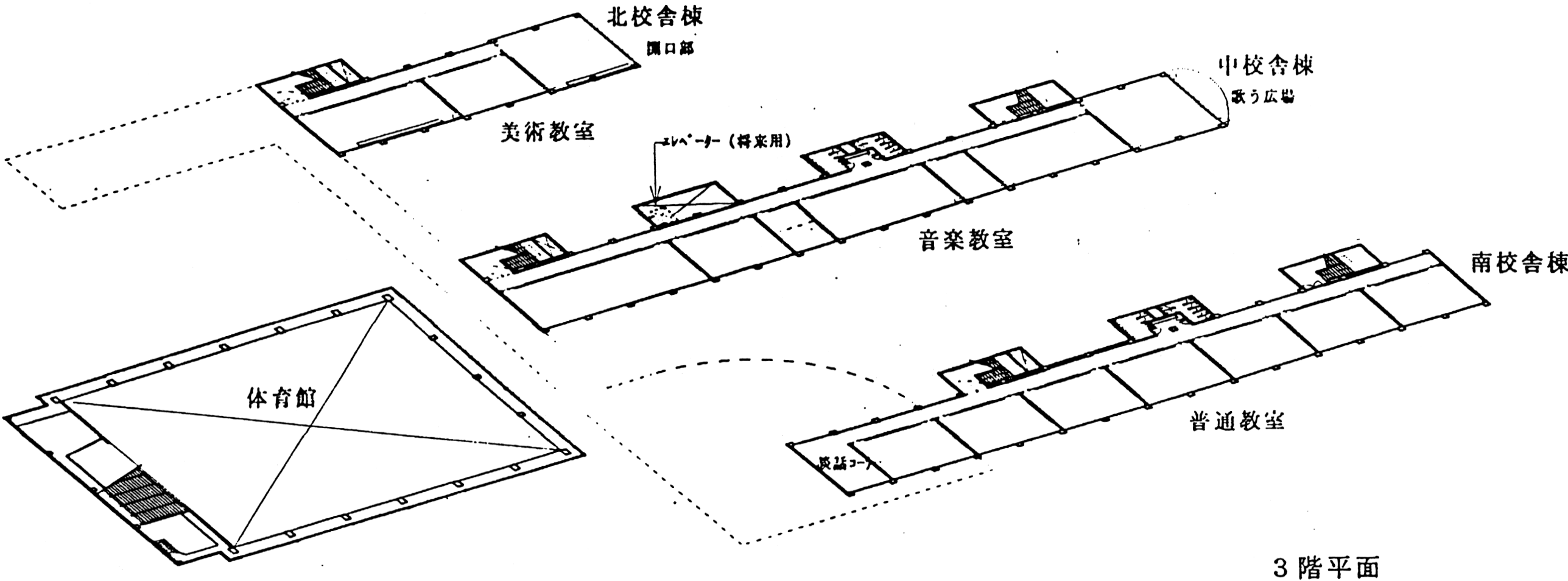
昇降口より南校舎棟へ入ると、昇降口ホールは、多目的コーナー、資料コーナーと一つとなり、大きな空間となっています。このホールは、郷土資料展示館でもあり、ふれあい広場と一体となった談話コーナーでもあり、可動間仕切を閉じれば教室ともなりえる、あらゆる事に対応できる場としてあります。1階平面計画は管理諸室ブロックを南校舎棟に、みどりの広場と接する理科教室ブロック、ワークテラスと接する特殊学級ブロックを中校舎棟とし屋外昼食、PTAの調理講習、等に活用出来る木かけ広場と一体となった調理教室、及び技術科教室ブロックを北校舎とし、給食室棟は生徒達の動線、及び屋外昼食との関連、日影を考慮して体育館と北校舎棟の間に平屋建として計画致しました。

・平面計画（2階）



2階は昇降口と吹抜の階段でつながった学習センター的な機能を持つ図書室・視聴覚教室ブロックと普通教室からなる南校舎棟、普通教室ブロックの中校舎とし、家庭科教室ブロックとコンピューター関連諸室の北校舎とし体育館と共に社会教育の一貫として利用出来る様考えてあります。又、2階床レベルを体育館とフラットに計画し、全校集会等のときにスムーズに出入りできるよう設定してあります。

・平面計画（3階）



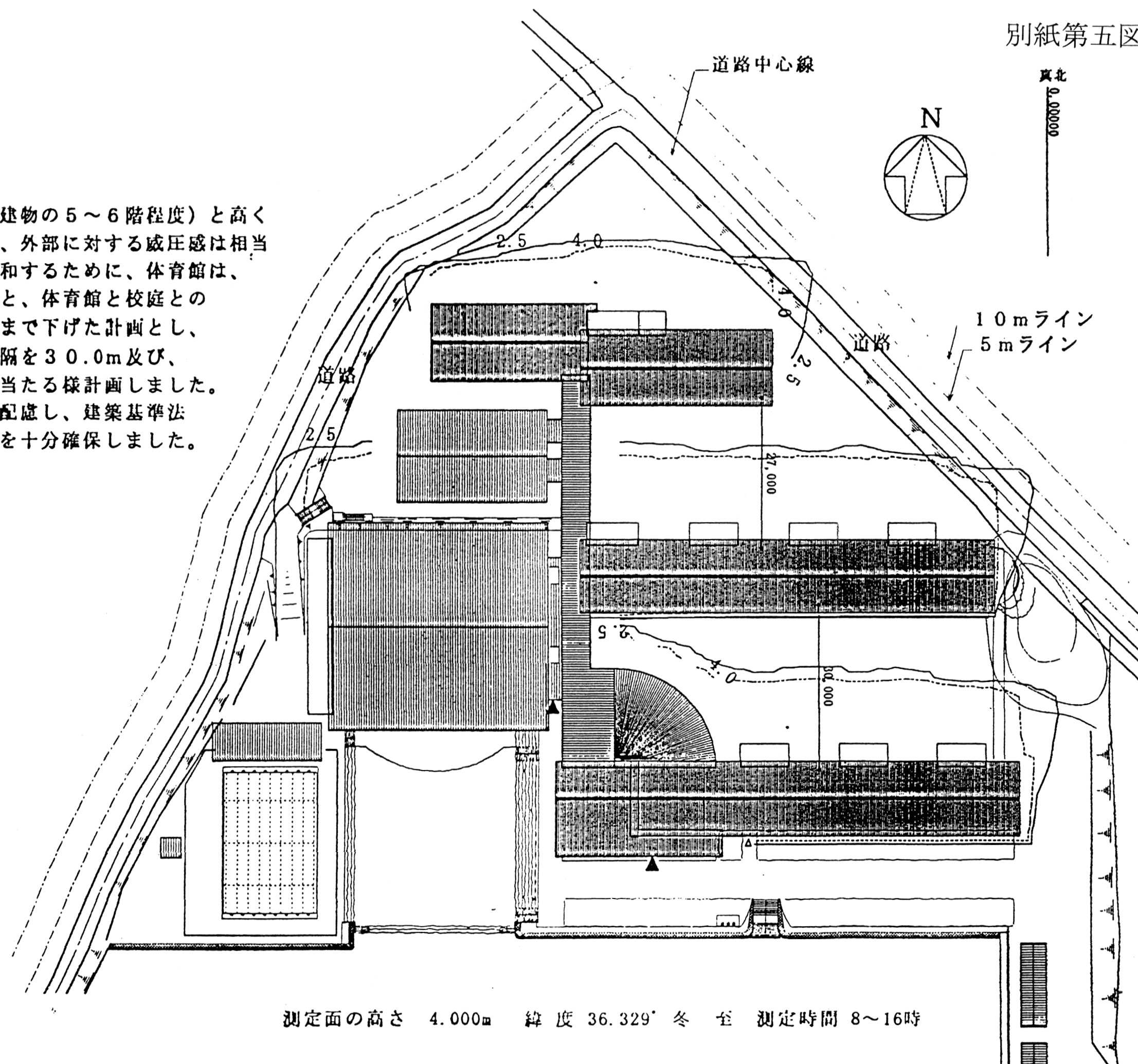
3階は、普通教室ブロックからなる南校舎棟、多目的室・生徒会室と音楽教室ブロックを中校舎棟とし、地形を利用した音楽の丘として外部とつながる様にしました。
 浅間山を一望出来る東側に大きな開口部を設けた美術教室ブロックとし浅間山の自然景観に囲まれた中で学習出来る北校舎棟を配置しました。

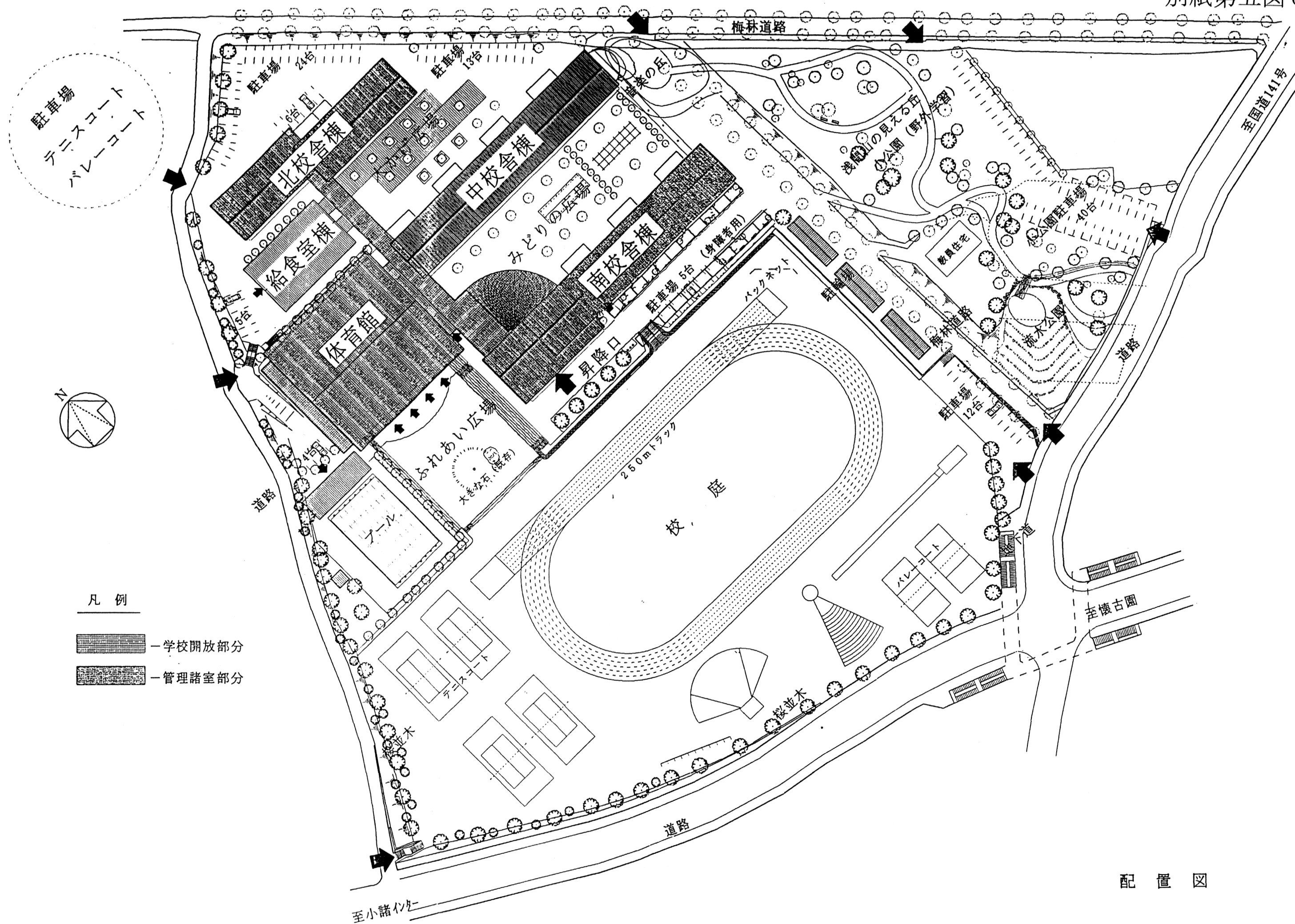
・平面計画（全体）

又、普通教室棟の各所に談話コーナーを設け、休憩時間・放課後の生徒達のコミュニケーションの持てるゆとりのある環境としました。
 障害者対応として障害者用トイレを1階2階に設けました。又、将来対応としてエレベーターの設置出来る場所を中校舎棟に設けてあります。

・日照計画

体育館が18.0m程度（一般建物の5～6階程度）と高くなる為、日照による影響及び、外部に対する威圧感は相当な影響が予想され、それを緩和するために、体育館は、校舎敷地と校庭とのレベル差と、体育館と校庭とのつながりを考え、校庭レベルまで下げた計画とし、3階建ての校舎棟は、隣棟間隔を30.0m及び、27.0mとり、十分南の陽が当たる様計画しました。又、近隣民家に対する日照も配慮し、建築基準法による規制に合致する空き地を十分確保しました。





配置図

第一設計図 (芦原中学校設計図)

設計者 布矢・甘利・篠原設計監理共同企業体

代表者 有限会社布矢建築事務所代表取締役

設計日 平成九年二月十八日

建物の所在地 小諸市丙三五七番地

建物の名称 小諸市立芦原中学校

建物の構造 鉄筋コンクリート造

別紙第一図 (芦原中学校配置図)

第二設計図 (東中学校設計図)

設計者 株式会社青建設計

代表取締役

設計日 平成元年一月三〇日

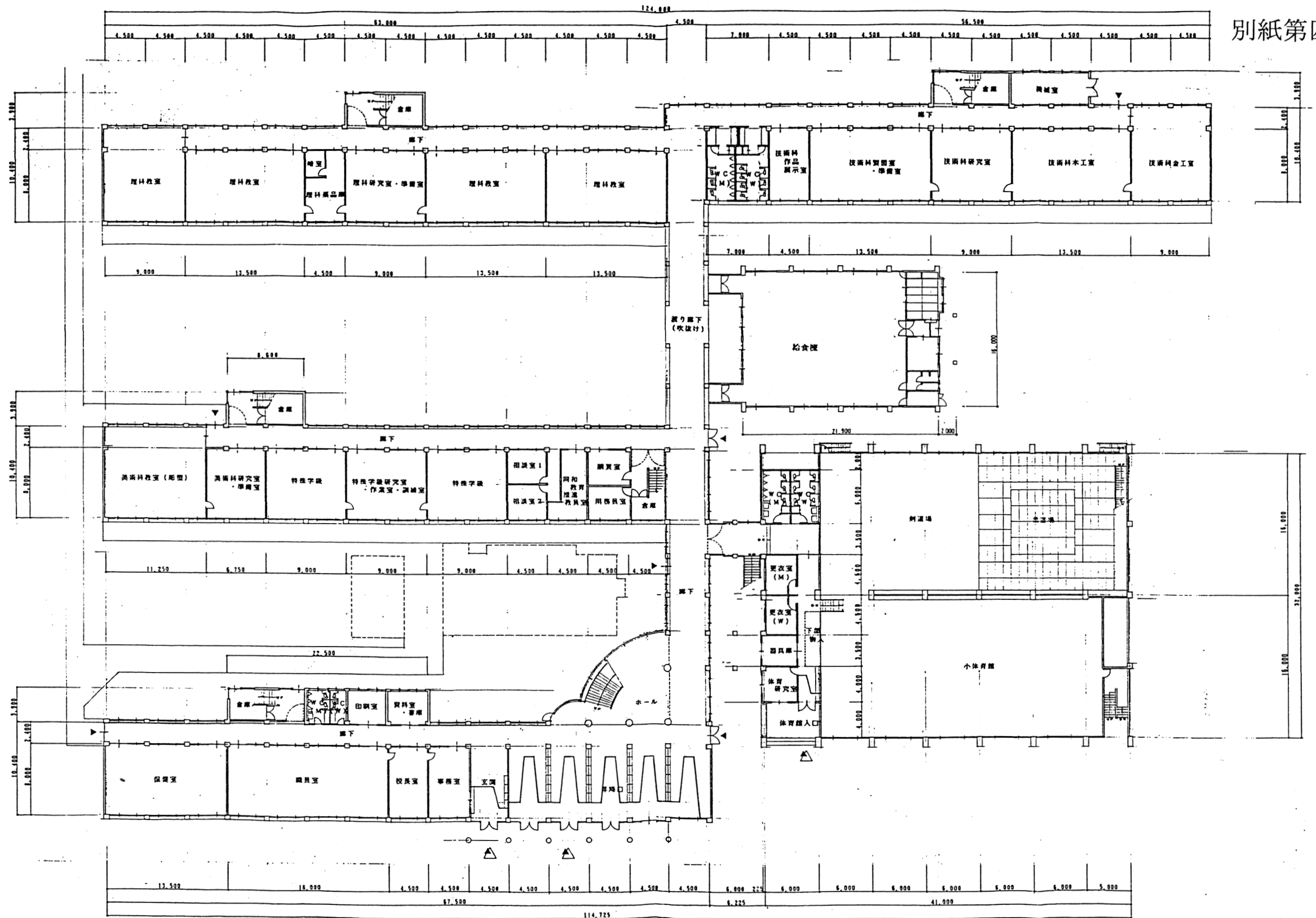
建物の所在地 小諸市甲一五一〇番地、外

建物の名称 小諸市立小諸東中学校

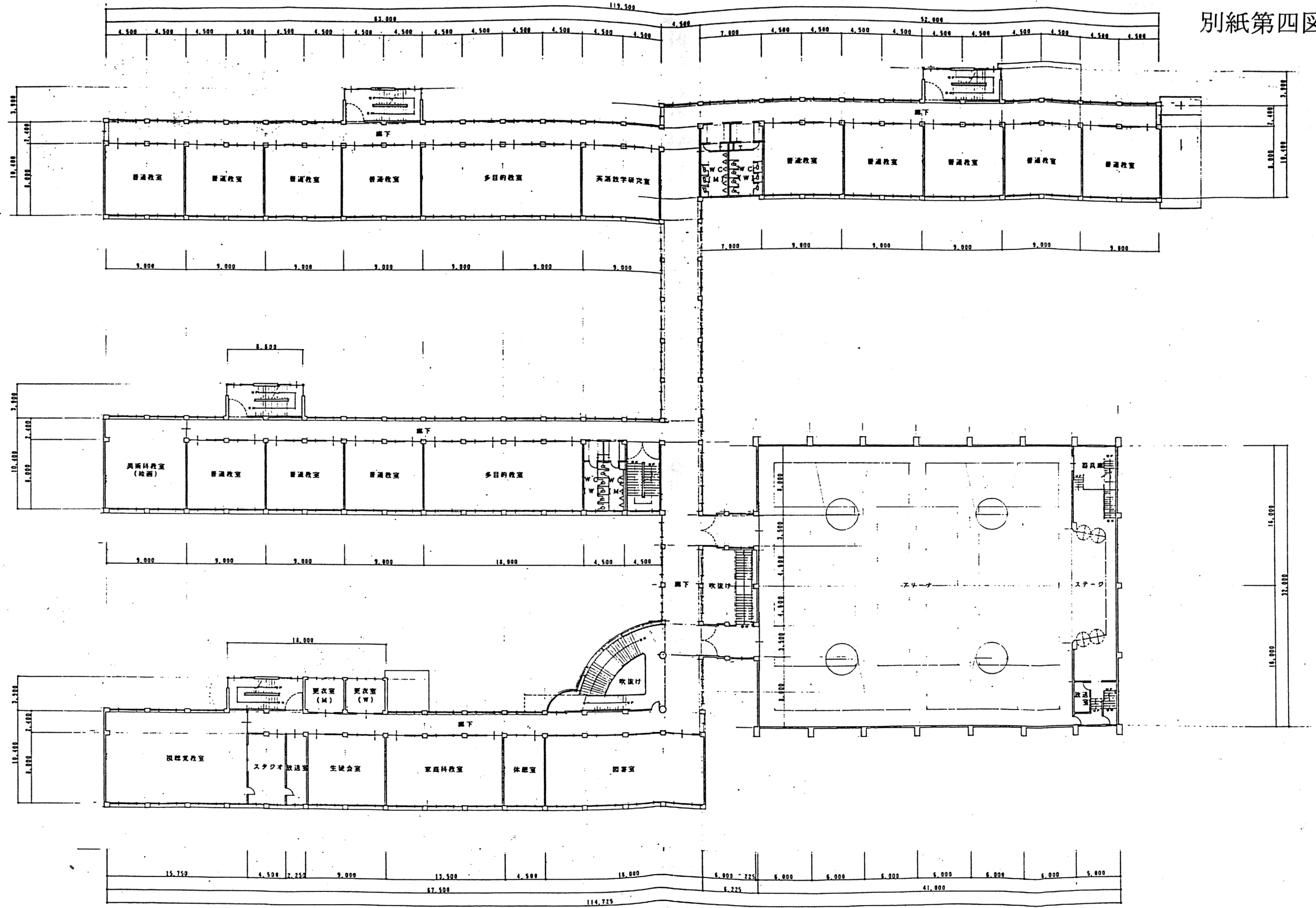
建物の構造 鉄筋コンクリート造

別紙第二図 (東中学校配置図)

別紙第三図 (東中学校逆配置図)

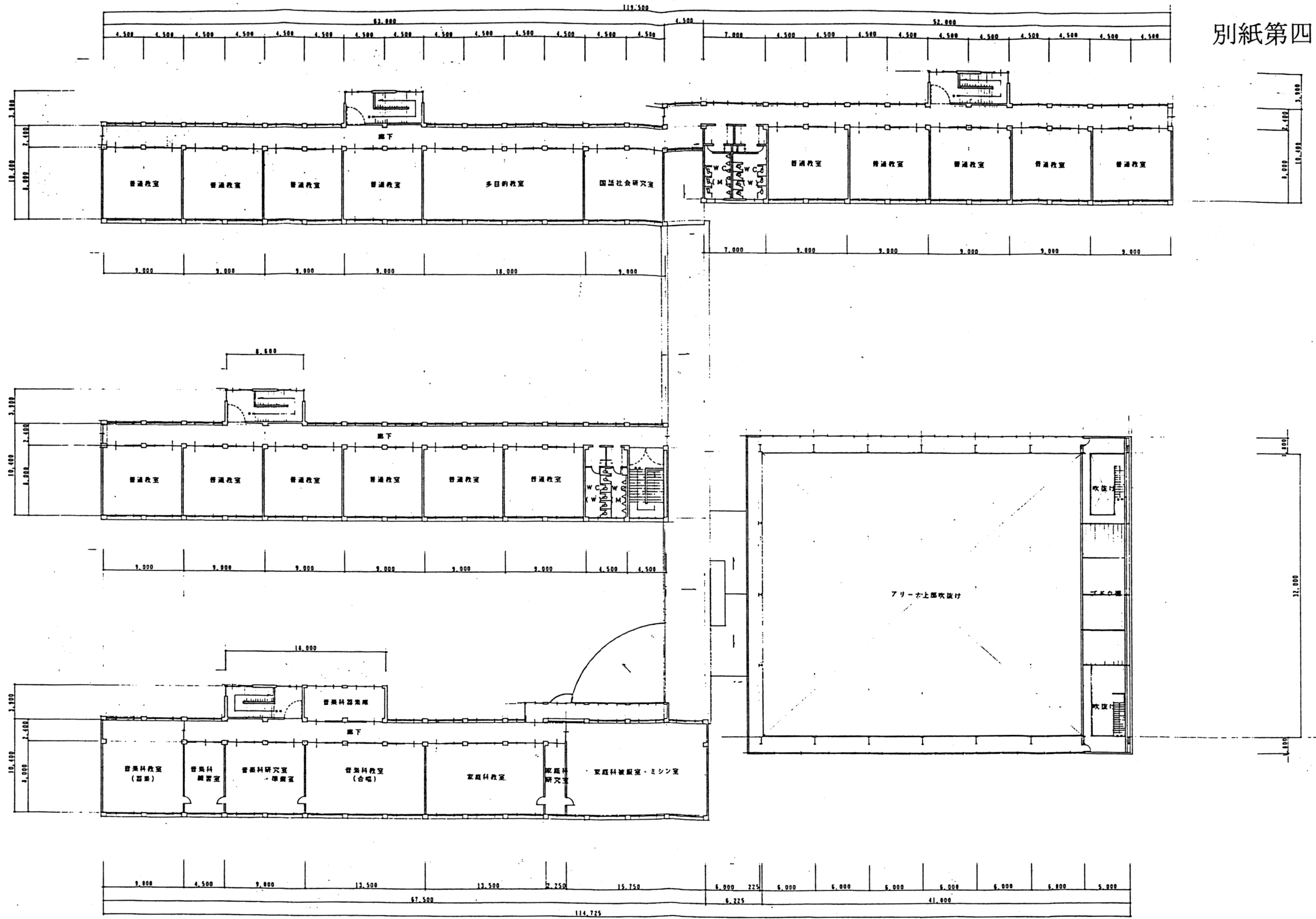


1 階平面図 1:200

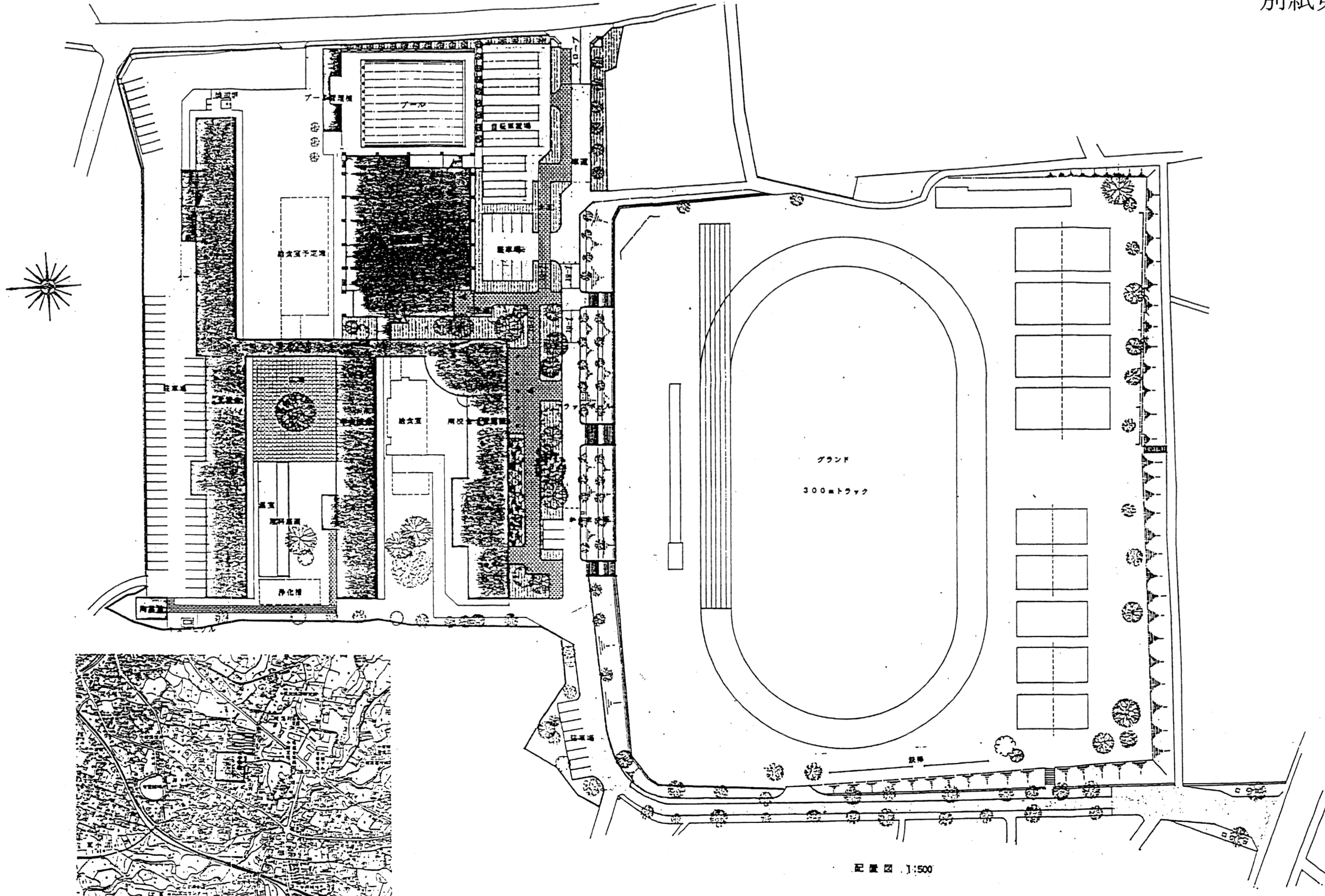


2 階 平 面 図 1:200

別紙第四図 3



3 階 平 面 図 1:200



付近見取図